

第6回 鎌倉市学校整備計画検討協議会 議事録	
日 時	令和5年(2023年)9月22日(金)9時30分から10時50分
場 所	鎌倉商工会議所1階102会議室
出席委員	黒木委員、佐藤委員、實方委員、高橋委員、河合委員、掛札委員、渡辺委員
欠席委員	倉斗委員、梨本委員
傍聴者	2名
出席した職員の職氏名	小林教育文化財部長、鈴木教育文化財部次長兼学校施設課長、萩原学校施設課施設担当担当係長、川村学校施設課施設担当
受託者	(株)アーバンデザインコンサルタント 清水計画部部长
内 容	(1)鎌倉市学校整備計画【骨子案】について (2)現地視察について (3)今後のスケジュールについて
そ の 他	

事務局 (鈴木次長)	(開会に当たり、協議会委員9名中7名の出席により、過半数である定足数に達していること、欠席委員から事前に連絡をいただいていることを報告)
高橋会長	第6回 鎌倉市学校整備計画検討協議会を開会いたします。
内容(1)鎌倉市学校整備計画【骨子案】について	
高橋会長	内容の(1)「鎌倉市学校整備計画【骨子案】について」を、事務局から説明願います。
事務局 (萩原係長)	<p>内容の1「鎌倉市学校整備計画【骨子案】について」を説明します。 お手元の資料1をご覧ください。</p> <p>学校整備計画の策定に向けて、これまで本協議会において多くの議論をして頂き、その結果を踏まえて計画の構成や要点をまとめた骨子案となりますので、内容を説明させていただきます。</p> <p>事前に各委員様には骨子案をお送りしていましたが、その後に修正を行いました点として、1ページ冒頭に※を追記しております。追記した内容としては、骨子案の取り扱いに関する事で、本骨子案は現時点での施設の老朽化等を考慮し、学校施設課が今後の計画策定に向けた基本的な考えをまとめたものであり、今後、補助金の活用など財政的な視点も考慮した協議を関係課と進めていく旨を記載しております。</p> <p>では、1ページ目の第1章から説明いたします。</p> <p>第1章では、計画策定の背景や目的として、学校施設の老朽化が進んでおり、計画的な改修や改築が必要となっている事や多様な教育ニーズへの対応、児童数・学級数のアンバランスの解消、人口動向を見据えた適正規模・適正配置の検討が必要であることを背景として、学校整備計画を策定する旨を記載しています。2「計画の位置づけ」では、鎌倉市公共施設等総合管理計画の個別計画として「鎌倉市学校整備計画」を策定する旨を、3「計画の対象」では、市内の公立小・中学校全25校を対象とすることとしています。4「計画期間と見直しのサイクル」では、本計画は令和6年度から45年度までの40年間を全体の計画期間としますが、将来的な児童・生徒数や社会状況の変化等を勘案しながら10年後を目途に計画の見直しを行う旨を記載しています。続いて2ページの5「これからの学校教育に求められる目標と施策の方向性」では、前回の協議会</p>

でもご説明させていただきましたが、本市で定めている学校教育指導の視点を記載し、その実現に向けた計画策定を行う旨を記載しています。

続いて、第2章「学校施設の現状と課題」では3ページから4ページにかけて、「学校設置基準」で定められた必要面積を満たしているか、また、「義務教育諸学校の施設費の国庫負担等に関する法律施行令」で定められている、改修時に国庫補助を受けるために必要となる面積を満たしているか整理しています。3ページに小学校、4ページに中学校の表を載せており、赤線で囲った箇所は設置基準を下回っている部分となり、網掛けとなっている箇所は、設置基準は満たしていますが国庫補助を受けるために必要となる面積を満たしていない部分があるという状況となります。

続いて5ページは「児童・生徒数及び学級数の推計」について記載しています。今回の推計は、平成27年度に策定された「鎌倉市人口ビジョン」で想定している合計特殊出生率や社会移動率に基づき児童・生徒数を推計しております。今後の素案を作る中ではもう少し詳細な推計を載せたいと思いますが、骨子案の段階では全体的な傾向を捉えているものになります。それによりますと、全体的な傾向として2030年度まで減少し、その後は児童生徒数が増加していく推計となっています。この推計によると、現在の児童・生徒数は極端に減少していくものではないことから、本骨子案では現状の学校数を維持していくことを前提に整備スケジュール等を検討しています。ただ、現在、新しい鎌倉市総合計画策定に向けて鎌倉市人口ビジョンの見直しが行われておりますので、それにあわせて本計画の児童生徒数の推計も調整する予定です。

続いて、6ページの3「現状と課題」からは、現状の学校施設の状況や児童生徒数の変化、学校教育環境の変化などの視点から課題を抽出しています。

(1)「施設の老朽化への対応」では、築30年以上経過する学校施設が多く、また、平成29年度から30年度にかけて実施した老朽化状況調査の結果から、これから10年の間に、建替えや長寿命化等による施設更新を判断する目安となる築60年を迎える建物が集中するため、財政負担の平準化を勘案しながら、計画的な施設更新とその間の適切な維持管理を行う必要がある旨を記載しています。

(2)「児童生徒数の変化と今後の予測」では、これまでの児童生徒数の推移の傾向や、課題としては将来的な人口減少によって適正規模を下回る学校が生じる可能性が見えてきた場合は、通学区域の見直しや学校の統廃合、施設の複合化等の対応について、早い段階で検討を始めることも重要である旨を記載しています。

続いて7ページの(3)「標準的な施設整備水準の確保」では、現状の普通教室の面積は各小中学校で最大約10㎡の差が生じていることや、児童生徒一人当たりの校舎面積も学校間で差が生じている状況の中で、全ての学校での公平な教育環境を整える必要があることや社会的背景や本市の実情を踏まえた学校施設のあり方を検討し、標準的な施設整備水準を設定して可能な限り平準化を図っていく必要があることを課題として記載しています。

続いて(4)「学校教育を取り巻く環境の変化と学校運営の多様化」では、多様化するニーズへの対応として従来の学校教育に加えて、保護者や地域住民が円滑に活動できるような施設計画とすること避難所としての機能の充実を検討する必要性があるとしています。

続いて(5)「不整形敷地における効率的な施設再編」では、現状の学校施設

は、敷地形状が整形でない、敷地に高低差がある、敷地周縁部に斜面地を抱える、敷地が道路等で分割される等の状況があることから、必要に応じて仮設校舎の設置や近隣空地の一時借用等も含め、費用対効果も踏まえた効果的・効率的な再整備手法を検討する必要がある旨を記載しています。

(6)「法的制約条件の変化への対応」では、日影規制や高さ制限などの法的規制の導入前に建てられた学校施設については、現状と同じ配置では整備が出来ない可能性があることから、効率的な教室配置の検討や、改築の場合にはビル型の建物形状などの建築的な工夫が必要になるものとしています。

(7)「ファシリティマネジメント計画との整合」では、既に策定されている「鎌倉市公共施設再編計画」における公共施設の複合化や地域拠点校に関する考え方が示されていることから、それとの整合性を図る必要がある旨を記載しております。

続いて第3章「学校施設整備にあたっての考え方」では、9ページから10ページにかけて施設整備にあたっての基本的な考え方について、安全性、快適性、学習活動への適応性、環境への適応性、地域の拠点化の5項目に分類して整理しています。

また、11ページでは地域拠点校の考え方に関して記載しております。鎌倉市公共施設再編計画において「各行政地域内の学校から1校を選定し、教育環境の維持向上や安全性に配慮した上で、地域活動支援機能等を統合した地域拠点校として整備する」としており、行政センターや青少年会館などを集約・複合化することを検討するものとしておりますが、現在、公共施設再編計画の改訂作業が行われていますので、そちらの状況と整合性を図りながら今後、検討していくものとしています。

続いて12ページ第4章の「計画・設計に向けた基本事項」では実際の施設整備にあたっての標準仕様の考え方を記載しています。こちらは文部科学省が策定した小・中学校施設整備指針を基にして、諸室の配置や仕様、施設規模等を整理するものとしております。また、2「施設配置と整備方針」では、建替えにあたっての施設配置について、現状の配置で建替えを行う場合、校舎と運動場の配置を入れ替えた場合、ビル型の校舎等による建て替えの3つの視点から、建て替えの際の施設配置に係るメリット・デメリットを記載しています。

続いて、13ページの第5章「施設整備の実施計画」についてです。ここでは、実際の施設整備の優先順位に関する考え方を記載しています。国の長寿命化に関する考え方では、建物が出来てから20年毎に大規模化改造や長寿命化改修を行い、80年以上施設を維持するものとしていますが、本市の学校施設では20年毎の改修工事がこれまでできてきていないことを勘案して、築80年の手前となる70年を一定のラインと考え、2041年までに築70年となる建物を有する学校を区分A、2042年から51年までに築70年となる建物を有する学校を区分B、2052年以降に築70年となる建物を有する学校を区分Cとして、それぞれの区分ごとに整備方針を検討するものとしています。学校によっては増築などにより、学校の棟ごとに築年数が異なる場合もありますが、ここでの考えとしては築年数が長い棟を基準として区分分けをしています。

整備方針として長寿命化改修をしていくのか建て替えを行うのかといった選択がある中で、本市の学校施設のうち、区分AとBに該当する施設は旧耐震基準により建てられた建物であることなどから、長寿命化を図る場合の課題を3点あげています。1点目は旧耐震の建物で耐震補強が行われている建物は、元

	<p>の構造体そのものが強化されたものでないことから、大規模改修を実施しても、築80年超の長寿命化には適さない。2点目に、【区分A】の学校については、今、大規模改修を実施しても、20年後には改めて建替えの検討を行う必要があり、費用対効果が薄い。3点目に、耐震補強等により、室内外にブレースや耐震壁が設けられている場合は、レイアウトの自由度が低い、という3点を課題として上げています。</p> <p>これらを踏まえて区分毎の整備手法を整理したのが14ページになります。区分Aの学校については既に築50年から60年程度が経過しており、長寿命改修をこれから行っても20年後には改めて建替えの検討が生じ、長寿命化改修による費用対効果が薄いため建て替えを基本に検討していきます。また、区分Bの学校については、築40～50年を目安に長寿命化改修を行い築80年以上、施設を維持する計画としますが、老朽化状況や教育活動上の課題や児童・生徒数の推移を考慮しながら、状況によっては築70年を目安に建て替えを行うこととし、個別の施設ごとに長寿命化改修もしくは建て替えを検討することとしています。</p> <p>区分Cの学校は、築年数が浅いことから基本的には20年毎の定期的な大規模改修や長寿命化改修により長寿命化を図るものとし、今後の児童・生徒数の推移を考慮しながら再整備の手法を検討するものとしています。</p> <p>また、なお書き以降に統廃合の考えについて触れており、本計画では人口推計の結果、25校を維持する内容としていますが、将来的な児童生徒数の減少により適正規模を下回る可能性が出た場合には、統廃合を検討する旨を記載しています。</p> <p>続いて15ページでは施設整備のスケジュールやコストの算出の考え方について記載しています。スケジュールとしては建て替えにあたって基本構想・計画から工事の完了までの6年間を1つの事業サイクルと想定し、同一年度に工事を行う学校は2校以下となるように想定しています。お手元の資料、別紙2では「整備スケジュール案」として、6年サイクルで2校ずつ程度で改修を進めた場合のスケジュールを作成しています。こちらは2校ずつ長寿命化改修や建替えを進めた場合の全体のスケジュール感を掴んでいただくために作成しております。事前にお配りした資料では築年数で機械的に並べて学校名を記載したスケジュール案をお渡ししていましたが、実際の整備の順番がどうなるかについては、区分Aの中で老朽化状況や教育活動上の課題等を考慮して順番を検討していくこととなりますので、現時点では学校名は記載しておらず区分AからCという記載のみとしました。</p> <p>資料1に戻りまして、最後に16ページの3ではコスト縮減に向けた可能性としてPFIなどの手法を検討するものとしています。</p> <p>以上で骨子案についての説明を終わります。</p>
高橋会長	<p>ありがとうございました。大きなところから小さなところまで、たくさんの課題があるのだと感じました。それでは何かありましたらお願いします。</p>

渡辺副会長	<p>何点かあるのですが、まず1ページ「計画策定の背景と目的」では、建替えという言葉が出てきていません。13ページでは、【区分 A】の建物は、大規模改修をしても意味がなく建替えを検討と書いてあるので、建替えという表現も入れた方が良いのではないのでしょうか。</p> <p>次に5ページの人口推計について、これは考え方の違いがあるかもしれませんが、鎌倉市の人口推計では1.74という希望出生率が使われているということですが、今年、厚労省が発表した国の出生率が1.26で去年よりさらに下がっている状況にあり、子育て政策など考えられてはいますが、これはまさに希望的な数字であり、市全体の政策にかかるとして、学校施設課だけの判断では難しいことは承知していますが、本当にこれで良いのかが疑問です。</p> <p>それから、一番気になることなのですが、6ページ「現状と課題」の(1)に6小学校と4中学校で早急に対応する必要があるD評価となっているという表現がありますが、確か前回の資料で校名が出ており、校名を出す、出さないも含め、総合防災課とよく調整しておく必要があるという話をしました。学校は避難所となっており、D評価となっているところに逃げるのが本当に良いのかということです。私は地域の防災組織の会長を務めており、学校整備計画とは別に、D評価のままで良いのか、早急に手を入れなければいけないのではないのかということ非常に疑問に感じており、この取り扱いについては、よく検討していただきたいと思います。</p> <p>それから、9ページの「学校施設整備にあたっての考え方」の「(4)環境への適応性」について、簡単に1行で「環境を考慮した学校施設」と書かれていますが、エコスクールと言っているのならば、自然エネルギーや雨水の有効利用など、SDGsを進める市の立場からすると、もう少し書きようがあるのではないかと思います。それから14ページの最後の部分ですが、「1校あたりの適正規模を下回る場合は、統廃合を含む見直しが必要」と書いてあるのですが、この1校あたりの適正規模というのは、具体的に何を指しているのでしょうか。児童生徒数、クラス数など何を意味しているのか、良くわかりません。</p> <p>それからもう1点、前に戻ってしまいますが、1ページの「計画期間と見直しのサイクル」で、10年を目途に見直しますよということですが、拠点校の整備が進めば、10年より前に取組むようになるのではないのでしょうか。さらっと10年後に見直しますとそれで良いのかなと思います。</p>
高橋会長	<p>ありがとうございました。事務局の方から回答をお願いします。</p>
事務局 (鈴木次長)	<p>ご指摘ありがとうございます。1点目について、この骨子案の中でも表記が少しぶれているところがあり、建替えと同じ意味で改築と言っているところや、他の場所では建替えという言葉を使っていることもあるので、分かりやすく統一させていただきたいと思います。</p> <p>続いて5ページの出生率の件ですが、厚労省が出している数値も確認していますが、現時点で市が表に出せる推計ということで示しています。5ページの一番下に表現しているように、今、総合計画の見直しと合わせた人口推計の作業中で、まだその推計が出ていない状況です。引き続きこの希望出生率による計画を維持していくのか、新たな視点を盛り込むのかを含めて、庁内で整理させていただき、改めてお示ししたいと思います。</p>
渡辺副会長	<p>既の実数値と乖離している状況において、希望的観測である出生率を使った推計で良いのかよく検討した方が良いと思います。</p>
高橋会長	<p>私もここは気になっています。鎌倉市の出生率は全国平均より低い1.1台で</p>

	<p>推移しています。一方で転入が多い地域もあって、なかなか読み切れないところもあるのかなと思います。ですので、防災などの視点から建物を見ていく方が良いのかもしれないと思います。そうすると、避難拠点や防災拠点という役割の中で、実際今ぐらいの歩いて行ける距離に学校があると良いのかという考えもあります。基本的に適正規模の式は決まっていないのですが、人数と面積の掛け算みたいなことで、子どもが少ないから統合した方が良いというのではないということです。バスで30分かかるとなると場所ではどんなことになるのか、やはり学校を残すことを意識した上で拠点化を図っていくことが必要なのかなと理解しています。なので、出生率は市全体の関係もあると思うので、それ以上に地域の拠点としての計画のあり方を検討していく必要があると考えています。</p>
事務局 (鈴木次長)	<p>前回からその辺りのご意見いただいており、骨子案の位置づけは冒頭書かせていただいているように、まだ庁内の調整ができていないところもありますので、今日のご意見を踏まえて、書きぶりが変わってくるのか庁内に諮っていきたいと考えています。</p>
渡辺副会長	<p>計画書に書くのはいいのかもしれませんが、計画と切り離した現実に対応していかないとまずいのではないのですかと思えます。計画としての考えは構わないけれども、現実には D 評価で早急に対応する必要があるとなっています。小学校が避難所になっていても、実際に逃げるときは危ないとなれば勧められない。だから、計画以前の話として現実に対応しなければまずいのではないのでしょうか。</p>
事務局 (鈴木次長)	<p>もちろん避難所という視点で、整備計画に先駆けて判断するということもあると思うのですが、一方で大きな規模での改修を考えなければならず、計画的にということが求められているのでお話をさせていただきました。例えば建物の改修など大きなところではない部分で、この計画とは別に対応できる部分はありますので、計画書に書き込む内容と実際に対応していく部分は整理しながら進めていきたいと考えています。</p>
渡辺副会長	<p>現実に対応していく部分と計画の議論とは違うのですから、それで良いと思います。小学校に避難するとして、危ないところに避難するわけにはいかないとしますので、そこは計画とは切り離して現実的に対応してもらいたいというお願いです。</p>
高橋会長	<p>ありがとうございました。ここは非常に大事なところだと思いますので、計画書の中に、防災に関する施設の準備に関しては、本計画と別にしっかりと対応していくということを書いておいた方が良いのかと思います。基本的に学校整備計画は40年間という中で、スポットを短く見ればすぐやらなければならないことがたくさんあるので、その辺が計画書の性質とはちょっと違うと思います。やはりこれまでもずっと話題となっていますが、一番は安全ということですので、その点について少し付け加えておくとも良いかもしれません。</p>
事務局 (鈴木次長)	<p>4点目のご質問について、環境を考慮した学校施設ということでエコスクールという表現だけになっているということで、足りていない部分があれば是非表現を追加させていただきたいと思えます。先ほどから同じような話になって申し訳ないのですが、まだ庁内での議論がなされていないということもあり、ここは整理させていただきたいと思えます。</p>
高橋会長	<p>これは文科省の方でも ZEB 化の推進など幾つか環境対応の話が出ています。これも日進月歩ですので、必要に応じて新しい環境技術や新しい環境の考え方に基づいて見直すみたいなきことを書いておくとも良いかもしれません。こちら</p>

	<p>の方のハードルが高く、改修工事が進まないという話もありますが、今後、色々な新技術が出てきた場合は柔軟に対応を行っていくということかと思えます。続いて適正規模に関する質問の回答をお願いします。</p>
事務局 (鈴木次長)	<p>これまでの協議会の中でも、例えば1校あたり12から18の学級数ですとか、1学年で単独のクラスが維持できないとか、というところの話をさせていただいたかと思えます。単純に規模が小さいから統廃合していくということだけではなく、教育的なところからも、例えば1学級しかないためクラス替えができないとか、そういうところの問題からも検討をしなければいけないと考えています。単純に人数を追いかけていくことだけではないということもあり、諸々を総合してということにはなると思いますが、単純に維持していきますと書くのも少し適切ではないかなということで、ここは書かせて頂いています。</p>
渡辺副会長	<p>単学級の問題は議論になりましたが結論は出ておらず、単学級にも良さはあると思えます。適正規模というのが数で表せないということがあり表現が難しいなと思えます。</p>
事務局 (鈴木次長)	<p>適正規模、適正配置という表現の中で、その中身として何を一つの指標とするかというところなんだと思えます。ただ鎌倉市が何をもちって統廃合するかというところが明確な線引きがない中で、表現としてはこの言葉を使っているところなのですが、今後、議論が進んで、明確に基準的なものが出てくれば、そういう表現も可能かと思えますが、今のところ適した言葉が見つからないので、この言葉を使っています。</p>
高橋会長	<p>ここは一番議論が分かれるところだと思います。まず、適正規模について、私も色々ところで議論していますが、地域ごとに考え方があるなというところもあります。せつかくでするので、委員の方々が思う鎌倉の適正規模というものを少しお話しただければと思います。</p> <p>例えば、中学校は3学級以上とされることが多いですが、実際に3学級の学校をつくろうとすると、スクールバスで1時間かかるとか、そういう地域が日本にもたくさんあります。いくら何でも小学生や中学生がスクールバスで1時間はあり得ないから、たとえ複式になっても、学校を残そうとするわけです。だから、単純に何クラスあれば良いというものでもないということです。神奈川は平成の市町村合併の洗礼をあまり受けていない地域なので、あまりないかもしれませんが、地方はものすごい洗礼を受けました。やはり、4つとか5つの町が合併して1つの市になると、もともとあった町や市に1つは学校を残したいという話になるわけですが、当然、大きくなった市の方に統廃合するという話になります。その時に絶対学校をなくさないとした地域があります。ただそういう学校は、予算面で苦慮していて、先生に1台コンピューターがないとかその程度なら良いのですが、トイレの改修もできない、だけどトップの公約だから3校残すとしていますが、もう3校は存在し得ない人口なのですが、それでも3校残す。学校は残ったけれど、子供にとって良い環境なのかと言われると非常に難しい場合があります。これも学校を残したもののという議論で、これまでのようにはいかないという感じです。非常に難しく、今みたいな説明を行政はしづらいと思うので、私の経験から言わせてもらいました。鎌倉市は、こういう風にやった方がいいなという、もちろんこれらの意見が採用される云々ではなく、せつかくの機会ですので、それぞれ委員のお考えを伺えたら何か参考になるかと思えます。</p>
河合委員	<p>そこまで困った経験がなかったので想像がつきにくいのですが、2学級、3学級というところまでは経験していましたので、行事などやる際には工夫がいるな</p>

	<p>と感じていました。今、お話を伺ってみるとあまりに遠距離というのも難しいなと思います。</p>
掛 札 委 員	<p>確か中学校だと川崎の学校が県内で一番大きい公立学校かと思います。9クラスぐらいで、職員の数も多いです。スポーツが盛んで、学校自体に活力があるということ聞いていますが、逆に第二中のような学校にそういうものがないかといったら、そのあたりは学校教育において、地域の特性を活かしたあり方というものが入ってくるころだと思われまので、規模自体で大きく何か損なうとか、逆に大きくアドバンテージを得るというのも、なるべく学校の職員あるいは教育委員会、市町の教育等の部分で対処し、実践として活かすようなことが今までの学校教育だったのではないかなと思います。</p> <p>もう一つ、バスで1時間の通学というのも、他市の校長先生方のお話など聞くと、やむを得ないという話も聞いていますが、子どもが通学で学校に来るまでに疲れちゃうというのは可哀想だよなというのも正直、感じました。適正云々というところの表現で、果たしてどういうものが一番良い表現になるのかというのは難しいところだと思います。数字で絶対にこれがベストですというの言いづらいところもあると思います。ただ、複式になったりすると、やっぱり大変な部分も実際にはあると思います。なので、はっきりこうだというのは難しいというのもありながら、その中でやってくのが学校教育なのかなと感じました。</p>
高 橋 会 長	<p>やはりこれは難しいところで、だから適正規模という表現になっていると思うのです。お母さん方の立場で、どういう学校だったら嬉しいかという部分でお話いただけたらと思います。</p>
實 方 委 員	<p>学校によって状況が全く違うため、基準に当てはめて考えるというだけではダメなのかなと思っています。学校は防災拠点校ではあるのですが、教室で雨漏りがあります。大雨の時に避難所になっても、家にいた方が安全かなという地域の人の声もあります。また、教室内の耐震工事をしていただいたのですが、小学校は窓際にブレースが入っているのでそのまま使えますが、中学校のある教室では耐震壁となっており教室が狭くなっています。さらに40人が入っている状況で集中できるのかなと思います。学校ごとの状況を見極めていただき、庁内の他の部署と協議し、よく学校の意見を聞いた上で基準を作っていただけたらと思います。</p>
佐 藤 委 員	<p>うちは幼稚園生と小学3年生の子どもがいます。小学校は富士塚小で少人数なので、やっぱり統廃合がずっと言われ続けており、無くなってしまうのかなと話をしていたら、再開発によって今後増えていくかもしれないということで、保護者はどきどきしているのですが、その再開発がいつになるのかわからないという状況です。来年、下の子が小学校に上がるのですが、学童が学校と別の場所にある場合だと預けにくいかなと思っています。また、山崎小は山を背負って建っており、暗闇の道を歩いていくのは、子どもたちは怖いだろうなと感じています。台風の際に学童を受け入れてもらう際、西鎌倉小とかは校庭内に学童施設があるのですが、やっぱり学校に近い場所にあったら親としては安心かなと思います。</p>
黒 木 委 員	<p>学校は地域性や文化が大事だと思っており、同じ文化圏、生活圏の中にあるというのが一番良いのかなと思っています。正直、腰越中は七里ガ浜小の児童がベースとなっていて、文化圏は違いますが、だからと言って上手くないという訳ではなく、中学に行くとそれぞれの良いところを子どもたちも感じていたり、当たり前前の環境となっています。子どもにとっては今の環境しか知らないの</p>

	<p>で、うちの子どもも2クラスなんですけど、4クラスの良さも悪さもわからないし、その時に子どもたちが充実して過ごせるという、この学校を卒業してよかったというふうに単純に思えるということは、そのベースに安全で快適に過ごせる環境というハード面とかがあるのかなと思います。子どもにとっての適正と大人にとっての適正はちょっと違うのかなと思ったりもしました。</p>
高橋 会長	<p>子どもにとっての適正ということ、環境に合わせて子どもも上手く受け入れるという話を聞くと、先ほど先生方からお話があったみたいな、学校の特性や地域に合わせていくということで、適正の話は難しいと思いました。</p>
渡辺 副会長	<p>学校は教育の場であると同時に地域活動の拠点や避難の場であることを考えると、単に児童生徒数だけで適正化を判断するのではなく、トータルで地域全体としてこの学校をどうするのかということを考える必要がありました。</p> <p>特に小学校がなくなるといって、一度故郷を出て行って戻ってきたときに、戻る場所がないんですよ。小学校の学び舎はものすごく大切な場所だったんですね。それがたまに故郷に帰ってくると門柱だけが残っているのは、ものすごく寂しいことだと思います。今の学んでいる人だけでなく、その地域の学校の役割を考えると軽々には統廃合をしてもらいたくないというのが私の印象です。</p>
高橋 会長	<p>今回の方針として、ここは統廃合しないということに安堵しています。私自身も地方に長くいたので、学校がなくなると集落が衰退し、さらに子どもが減り、本当に集落が無くなってしまおうという状況も見ているので、今は子どもたちが歩いていける距離に学校があるというのは、本当に貴重だと思います。</p> <p>一方で、先生が育つという意味でも考えると、やっぱりあまりにも人数が少ない学校でも育ちにくいし、多すぎるところでも育ちにくいという意味での適正規模というのものもあるなと思います。これまでみたいに、答えが一つのものを一生懸命教えるようなことは2、3人の授業でもできるかなと思うのですが、思考力を高めるとか、問題解決の力を高めるといっては、子ども同士が切磋琢磨する一定の人数というのがあるなという気がします。そういう意味では、少人数の場合は自分たちで問題解決しようという考えが生まれにくいのかなとも思います。</p> <p>色々な面での適正規模というものがあって、最後はこういう話になったとき、適正規模というものを具体的に学校の中で検討していくということになるかと思っています。今、どのように表現しておくのが良いのかと言われると、なかなか難しいものがありますね。</p> <p>最後にもう一つ質問があったので、回答をお願いしたいと思います。</p>
事務局 (鈴木次長)	<p>見直しのサイクルと拠点校の関係についてですが、今、再編計画の見直しの中で整理する部分もあるということと、実際に拠点校の位置づけがある学校の優先順位をあげるのかということもあるので、そこは整理するとして、ここで伝えたいところとしては、40年という計画期間を定めていますが、今回策定した計画で何が何でもやっていくということではなく、短い時間で見直しをすることで、状況に合わせて柔軟に対応していくという意図で書いています。</p> <p>10年後の見直しの前に、計画確定段階で再編計画との整合というのがありますので、まだそこは固まっていないところもありますけれども、その進捗状況で一度計画を作ったからといって、40年見直しをしないということではないことをご理解いただければと思います。</p>
渡辺 副会長	<p>これも前回も言ったと思うのですが、計画を作ることが目的ではなく、計画を使うことが目的なのであって、見直しを10年と置いています。状況の変化があったら随時見直ししていくというのが現実的な計画の活用として良いのではな</p>

	いかと思います。
高橋会長	こういう条件で変わる可能性があるということは冒頭に書いておくと良いかもしれません。防災とか地域拠点にするとか、補助金など条件はたくさんあると思います。
佐藤委員	多分、最初の会議の方に説明いただいたと思うのですが、3ページの表の中で、プール用地を含むのと含まないとありますが、他校と一緒に使っている場合もあり、その違いというのは何かあるのでしょうか。
事務局 (鈴木次長)	例えば腰越小などは、敷地外にあるプールの面積も含んでいるというのは理解いただけると思うのですが、共用プールについては、どちらかでカウントしています。例えば、第一小と第二小・中も共同で使っておりますが、第二小にカウントしているということで、重複しない形で整理させてもらっています。
佐藤委員	プールの面積が片方の学校にのっかると、敷地に余裕があるように見えないかなということです。富士塚小は元々余裕がある中で、さらにプール面積が含まれており、これらの面積を元に考えていくとなると、何か不平等感があるかなということです。
事務局 (鈴木次長)	これは、当初整備した位置付けなどから整理したものであり、それを基に学校管理台帳という形で国に報告している数字であり、自由にどっちに乗せるとはいかないものだと思っています。その経過も踏まえ、どちらかの学校で載せるという形としています。
高橋会長	学校のプールに関しては、少し新しい考え方も出ており、例えば、夏のわずかな時間しか使わないものに高い費用をかけて作って良いのかとか、今までは寒いと使えないとしていたものが、最近は暑すぎて夏も使えないとなってきている中で、整備するなら校舎内に作ることも多いですし、民間のスイミングスクールを使用するみたいな話も聞いているところです。そのあたりのプールに関して、議題になっていることはありますか。
事務局 (鈴木次長)	今、議会の中でもプールの議題が出ています。実際にプールの修繕が間に合わなくて今年のプール授業ができなかった所もありますが、今お話しされたように、1年のうちわずかな期間で使う施設に対して、かなりコストをかけなければいけないということをどう考えるか。あと、鎌倉の小中学校のプールが同じ時期に出来ているので、大きな修繕が必要になるということもあります。既に手を入れているところもありますが、今後も同じようにお金をかけて、かつ、そこから先ランニングコストをかけ続けることに対してどう考えるか検討しなければいけないところです。民間のスイミングスクールを活用することにより通年で授業ができるようになるというところもあるので、そこは検討しなければいけないということは意識しています。
高橋会長	<p>そうすると、プール用地がグラウンドになったり、いろいろな意味で土地の使い方が変わってくるかもしれません。通年利用できるのだったら、天候次第で時間数が違うとか、先生方の指導が大変だという声も聞かれたりするので、そういう方針が出てくると良いかもしれないと思います。</p> <p>これはこれで非常に大事な話で、全く同じものを作り替えていくのではないと思います。限られた土地ですから、その時代によって、有効に使っていくということを考える必要があります。これまで通りプールを使いますというのではなく、限られた土地をどう有効活用していくのかということかと思っています。</p> <p>それでは、多様な意見が出されたというふうに思いますが、皆さんからの意見を整理していただき、色々な関係者と協議するところもあると思いますので、</p>

	それに基づいて修正をしていきたいと思います。他にも修正することがあるかもしれませんが、そのことに関しては、私の方に一任して事務局と調整させていただきたいというふうに思いますがよろしいでしょうか。
全 委 員	(了承)
高 橋 会 長	ありがとうございました。本件については以上とします。
内容(2)現地視察について	
高 橋 会 長	続きまして、現地視察について、事務局からお願いいたします。
事 務 局 (萩原係長)	<p>前回の協議会で現在の学校の状況を知るために、視察をしてはどうかというご意見をいただきました。</p> <p>事務局としては直近で改築を行った大船中学校など先ほどの整備区分で言う区分Cに該当する学校を1校、反対に築年数が経過している区分Aの中からもう1校見るといったことを考えています。</p> <p>次回予定している協議会が11月になりまして、それよりも前に実施できればと考えており、日程も限られておりますので、視察を行う学校の数やどこの学校にするかなどご意見をいただければと思います。なお、当初予定していたスケジュールに追加する形となることから、正式な協議会としての招集は行わず、希望する委員の方を対象に任意でご参加いただく形を考えています。以上で説明を終わります。</p>
高 橋 会 長	ありがとうございました現地視察について、ご意見ご要望などがありましたらお願いします。
實 方 委 員	例えば区分Aから第一小を選ぶとしたら、距離が近いところで区分Cから選ぶのも良いかもしれません。区分Cは大船中学校で決まっているのですか。
事 務 局 (萩原係長)	大船中については、平成28年に改築した新しい建物であり、例として挙げたものです。
高 橋 会 長	<p>元気があれば他のところも見ていただければ面白いと思いますが、あまり時間もないので市内と考えて、今の意見を集約すると、区分Aのような築年数が経過している学校を見て、それから少し遠くなるかもしれませんが大船中のような新しい学校を見られるとバランスが良いのかなと思います。</p> <p>私が前に住んでいたところの学校が統廃合で15年前に建て替わり、今年G7の大臣の視察校に選ばれました。私が面白いと思ったのは、有名な建築家が設計したもので、一人一人を大事にする教育を見て、それを校舎に埋め込んだのですが、一人一台コンピューターが使われるようになり、一人一人の意見を吸収しやすくなり、ヨーロッパの学校のような感じで、子どもたちが勉強する校舎になっているということです。だから校舎の見栄えがまず、そういう子どもたちが色々ところで勉強し、例えばロッカーが移動するのは、このためにやったのかとかが分かってきます。なので、多分、校舎というのは指導する先生の考え方にも強く影響しあうのだと思います。実はその地域も、その校舎を建てた後は全部元の形に戻って、これは使っている先生が使いにくいからという意見からなんですけど、今、子どもたちが主体的に勉強するようになると、一斉指導と違うので立ち歩きも自由だし、誰と相談しても良いようになってきて、だんだん教室から子どもたちが染み出てきて、教室の中では収まりません。</p> <p>新しい校舎と古い学校みたいなものをセットで比較しながら、見ていただきたいなと思います。</p> <p>私の話が長くなって申し訳ございませんが、今のご意見を踏まえ事務局に調</p>

	整頂くということによろしいでしょうか。
全 委 員	(了承)
事 務 局 (鈴木次長)	今ご提案いただいた学校を含め、こちらで候補を選定させていただきたいと 思います。視察は半日ぐらいかなと思っていますが、メール等で日程調整と合 わせてご連絡させていただければと思っています。
高 橋 会 長	ありがとうございました。学校視察については以上にしたいと思います。
内容(3)今後のスケジュールについて	
高 橋 会 長	続きまして内容の3、今後のスケジュールについてお願いいたします
事 務 局 (萩原係長)	内容の3「今後のスケジュールについて」を説明します。 次回は、本日頂いたご意見を基に、学校整備計画の素案をお示ししたいと考 えております。日程につきましては、前回の協議会でもお知らせしたとおり、11 月21日もしくは29日のどちらか、時間はいずれも9時30分からを候補日と考 えており、詳細はあらためて調整させていただければと思います。 また、11月の協議会で素案に関するご意見をいただいた後に、12月から1月 頃に広く市民の皆様からご意見をいただくための意見公募(パブリックコメント) を実施したいと考えていますのであわせてご承知おきください。 なお、現地視察については別途日程調整のご連絡をさせて頂ければと考えて おりますのでよろしく願いいたします。 以上で説明を終わります。
高 橋 会 長	ありがとうございました。質問が無ければ本件は以上にしたいと思います。で は、その他として事務局の方から何かありますか。
事 務 局 (鈴木次長)	その他については事務局の方からは特にありません。
高 橋 会 長	それでは、これをもちまして第6回鎌倉市学校整備計画検討協議会を終了し ます。ご協力いただきありがとうございました。